



ONLINE “蔵出しバー”

メンバーと蔵出し動画を肴に、明日を企てる！

工芸の世界は、蝸壺化と縦割りだらけでもったいなさ過ぎる！
CoJの活動の第一フェーズ＝横断的なプラットフォームづくり
で工芸を活性化する取り組みのはじまり、京都での工芸有識者
円卓会議をふりかえります。あれから6年、ここからどうなっ
た？を語り合い、先日他界された柳原正樹館長を偲びます。

21世紀鷹峯フォーラム 第一回京都 最終日メインシンポジウム 2015.12.6

100年後に残る工芸のために

京都 工芸有識者円卓会議 振り返り “ここから→これから”

5.22 Sat. 14:00-17:00
by Zoom

蔵出しバー

振り返り視聴ゲスト | 浅井俊子さん

一般社団法人 Impact Hub Kyoto 代表理事
/ (株) 情報工房代表取締役社長

DATA : 京都 工芸有識者円卓会議 2015.12.6

3h 30mをダイジェスト視聴

ファシリテーター |

塩瀬隆之氏 (京都大学総合博物館 准教授)

登壇者 | 2015年当時日本の工芸の重要人物が多数登壇！

記録と動画制作 | 大隅圭介さん

● CoJメンバー・事業協力者・CoJ入会検討者向け

● 蔵出し映像を肴に乾杯・視聴+意見交換 (だらだら参加OK)

● ほぼ月一回開催 (座談会形式・発言時は自己紹介要)

● 参加費：無料 CoJの活動にご興味のあるかたはぜひお申込を

参加申込は info@thecreationofjapan.or.jp

一緒に活動していただけるメンバのご入会、いつでも募集しています！

一般社団法人ザ・クリエイション・オブ・ジャパン (CoJ) <https://thecreationofjapan.or.jp> 03-3573-3339



by CoJ

21世紀鷹峯フォーラム 第一回京都（2015）記録集 ダウンロードページ

https://takagamine.jp/download/2015_kyoto/report_takagamine2015kyoto.pdf

▼21世紀鷹峯フォーラム第一回京都実行委員長は、京都国立近代美術館の柳原正樹館長。いただいたエールを、明日へ。



『京都は難しいで・・・？』に風をひとふき。対話の場を拓く第一歩。

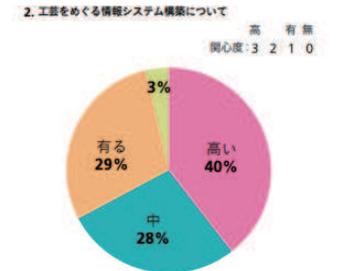
お一人おひとりが想像する「工芸」の姿は、さまざまです。工芸は時代と場所とともに変容し、生活や文化、経済を支えてきました。人の暮らしにある衣食住のすべての道具が工芸でした。石油製品に対する見直しなどの流れのなか自然素材を使った工芸が今注目を浴びています。しかし工芸の内側にはわかりにくい境界線があり、一般には、近現代の歴史を学ばなければ俯瞰して構造がつかみづらい状況にあります。

CoJでは、「100年後に残る工芸のために、わたしたちは何が出来るか？何が必要か？」という観点で工芸の主要な機関に働きかけ協働の提案をしました。2015年京都、2016年東京、2017年石川・金沢の三都市をめぐり、各地で工芸の祭典を開催。最終日、300人規模の有識者の列席のなか、知恵を持ち寄り、工芸を盛り立てる様々な方策を提案しています。ファシリテーターには、「伝える」を科学する、京都大学総合博物館の塩瀬隆之准教授を迎え、うたた寝すらできない3時間半の会議をアクティブラーニング形式で行いました。これまで公開されていない動画を、“京都の面白い人”の殆どとつながる、浅井俊子さんをお迎えして振り返りたいとおもいます。じっくり見つつ、いま進行中の事業について話し合います。

▼浅井俊子さんと行った2つのイベント



▼本会議の事前調査 DATA



- Q3-2 関心がある(1以上)と答えられた方に質問です。
日本の工芸について、「情報システム」の不足がさまざまな場で問題とされています。では、日本全体の工芸に関する情報で、何が足りないと思われますか。まだ「何」と「何」を重点的につなぐ必要があると思われませんか。該当するものすべての項目「/」、うち重要度の高いと思われるものに「★」マークをご記入ください。なお既存の取り組みがある場合も、現状より効果を上げる必要な点などのご意見を増やす際には、空いた場所に記入ください。
- 見たい、触れたい、買いたい、といった、出口需要を増やすためのもの(国内及び国外向け)
 - 運搬・輸出入 / 翻訳 / 流通等のプロフェッショナルを全国に繋ぐもの
 - 全地域・ジャンル別 対国別・文化別の継続的なマーケティングを進捗するコンソーシアムの形成
 - 全地域・ジャンル別 つくり手×つくり手×学生 産地を越えた交流や後継者育成を目的とするもの
 - 全地域・ジャンル別 道具や素材の課題への対応策をつくるもの
 - 全地域・ジャンル別 実際の仕事の公募×つくり手×つなぎ手
 - 全地域・ジャンル別 インバウンドツアーのネットワーク構築
 - ほか()

▼円卓会議後発表された京都提言

京都提言

日本の工芸は世界に誇れるものです。これは京都宣言テーマを機に、この事象に私たちは、工芸の魅力を伝えるためのものが、高い意識をもって関係者を巻き、対策していく行動を促してまいります。ここに100年後に残る工芸のために、3つの提言をいたします。

- 一つ 100年後にも生き残る工芸品を生み出すためには、正しい手と職業者の存在が必要です。この志に賛同いただける美術館・博物館、大学などの教育機関、研究機関とともに、特に若い人たちが、まいつかい学として、工芸の魅力に気づき、まいつかい学となつてもらうように、工芸にまつわる感性、物語、日本とつなぐつなぐの力を多くの人に伝えていける、「見かた」体験・教育の機会を、金通機関と増やすよう、心掛けてまいります。
- 一つ 京都は、これからは工芸の都として、つくり手が求める材料と道具、技術および技能、それらの情報が最も集まる拠点として、このテーマを機に各産地との連携をはかっています。100年後にも新たなつくり手が多く生まれるために、大切な道具と材料を、その情報の確保に努めています。
- 一つ 私たちは、100年後に残る、工芸のために今後も、連携・協力して活動が続けていきます。この活動を盛り上げるためには、多くの方々の理解と協力と、国の関係各府庁、地方公共団体、そして企業の実践が必要であり、さまざまな支援を求めて声をあげていきます。

決断のこのおと、半年後に東京で開催する対話の場を設けようとする。対話の場を世界全体の場へとつなぐための関係構築が重要であり、工芸の魅力を発信する機会となるよう働きかけていきます。

- ・参加できること。情報発信だけではない、タッグアップ型が負いのは？
- ・建築や美術館に美術工芸が入りやすくなるための法的改革
- ・出口につなぐと思えます
- ・つくり手間の「真実な危機意識」と「枠を超えたクリエイション」を喚起させる情報
- ・不足よりも、どのようにしたら偏りのない情報収集ができるかわからないです
- ・運搬〜つなぐもの：職人と個別対応するシステム
- ・マーケティング：海外マーケティングのデータを一覧で見て、報告およびデータベースが必要
- ・工芸そのものをアピールすること
- ・各産地の種の選別(選別を食ひ)を構築
- ・情報にできないアナログ的なものをどう処理するか、スタートアップと一問のネットワークをどう形成するか
- ・産地概念にとらわれないクリエイティブ人材の活用

